

平成28年度第1回さがえ未来創成戦略に係る外部有識者会議の概要

平成28年9月28日（水）10:30～

寒河江市役所1階議会会議室

【出席者】委員23名 副市長以下事務局

【欠席者】16番 佐藤善哉、19番 大沼尚史、12番 設楽厚彦

【代理出席】7番 菊池進→斉藤副会長、23番 柴田清志→斉藤専務

有識者発言要旨

【さくらんぼ労働力の確保について】

「さくらんぼボーナス」は良かったので来年も続けてほしい。「さくらんぼオーナー制度」についてもオーナーの皆様が喜んでいたので、こちらも今後も続けてほしい。

【農業体験ツアーについて】

周年観光推進協議会としてさくらんぼ狩りを中心として観光に力を入れてきており、昨年からは、つるり里いもと枝豆の収穫体験ツアーを始めたところである。今年は仙台からのバスツアーを組んだが、抽選で参加者を絞るほど好評を得た。午前には収穫した里いもで芋煮会で、午後からは収穫した枝豆をその場で茹でて食べてもらうもの。収穫体験のツアーには可能性がいろいろあると思うので、ツアーから寒河江の美味しいものを広めていけるようこれからも行政と一緒にがんばっていききたい。

つるり里いものツアーに参加された方から、「60代の女性は暇を持て余している。さくらんぼの収穫の手伝いに来たい。」と聞いたので参考にしてほしい。

【伝統野菜の生産体制強化について】

畑地区に大変おいしい大根があり、昨年天童の企業（安心工房）で煮物に加工し東京で売り出したところ大好評だったと聞いた。寒河江の野菜なのに天童で売り出しているのは残念であり今後の展開につなげるべきではないか。

【イベントについて】

楽天のふるさと納税ランキングを見たら寒河江市が1位だった。イベントやネット、メディアを使った寒河江市のイメージアップがよいのではないか。イベントは、単発だけの経済効果で終わってしまうことが多いが、単発で終わらせない持続的な経済効果に結び付けるのが大事で、「イベントだけでは終わらせない」という青写真が必要ではないか。

【観光ボランティアについて】

観光ボランティアには「街中」と「慈恩寺」があるが、行政のなかで観光ボランティアの位置づけをしっかりとし、活動が活発化するような取り組みやボランティアの連携を構築してほしい。

【広域観光について】

広域観光で地域が連携していくのは大切なので、さらに連携を強めて欲しい。観光客の呼び込みも大事だが、宿泊面での受け入れ体制ができていないように感じる。観光客が来ても他地域（天童、東根）に宿泊者が流れているのが実状であり、古い宿泊施設の改善、観光客が楽しめる雰囲気づくり、まちづくりを含め、ソフト、ハード両面の強化のための勉強会等が必要ではないか。

【婚活について】

人口を減らさないためには女性に子供を産んでもらうことが一番だが、女性が子供を産まない一番の理由は経済的理由だと言われている。結婚できない理由も経済的なもの大きい。人口減少を止める決め手はないと思われる現状、市でいろいろな支援をしていることを強くPRする必要があるのではないか。また、婚活イベントとして市内の同級会に補助を出してはどうか。

【市報について】

市報の文章が多く見づらいため、市民の方が分かりにくいのではないか。ワンポイントでお知らせを入れるなど見やすくすれば、もっと制度を周知できるのではないか。

【高等教育について】

資格が取得できる大学など、寒河江に高等教育機関を作るのはどうか。